

むつごろう通信

17号

2010年

2月26日発行

退任の挨拶



沿岸域社会計画学分野
五明 美智男 客員教授

3年間の就任期間を終了し、2010年3月末をもって退任することとなりました。センターの先生方はじめ皆様に大変お世話になりましたこと、感謝申し上げます。

有明海の干潟生息場の回復・創成・工夫という大きなテーマの中で、「むつごろうのみた有明海」をコンセプトに、有明海沿岸の海岸線や干潟域の比較調査、なぎさ線の内部構造のモニタリングなどを担当させていただきました。着任の挨拶（むつごろう通信12号）では、「企業の技術開発現場の視点で…」と抱負を述べましたが、地域の問題に対する大学の精力的かつ総合的、実践的な取り組みに勉強させていただいたというのが正直な思いです。

振り返れば、私の有明海との接し方は、①有明海と他海域とを比べる、②干潟・海岸線の構造や形態に注目し、微地形などを体系的に工夫する、③底生生物だけでなく干潟・浅瀬に集まる稚仔魚を追う、といった3つであったように思います。「干潟にでる」ときはいつも楽しい時間であり、適度の疲れとおいしい焼酎がいつでも刺激的な議論を約束してくれていたようです。本務先の仕

事ではありましたが在任期間中に韓国の干潟や国内の干潟を数多く見る機会に恵まれたことも、また調査ならびに踏査で有明海を2周することができたのも、単なる偶然ではなかったような気がします。

研究フィールドとしての有明海での貴重な経験を活かしていければと考えている次第です。今後ともよろしくお願いいたします。



東京湾・小櫃川河口干潟



有明海・御興来海岸



韓国・仁川干潟